

旧堀部家住宅

犬山城下町で唯一の武家の面影を残す建物です。

堀部家は代々、犬山城主の成瀬氏に仕える武士だったが、明治初年にこの土地を手に入れ、明治16（1883年）に堀部邸（主屋）を建築しました。その後、明治26年（1893年）、堀部邸の土蔵、渡り廊下、作業場を増築しました。

敷地は1338.04㎡（約405坪）。随所に武家住宅の特徴が見られます。

主屋、離座敷、土蔵など全部で6棟の建物は、文化財的価値が認められ、国の登録有形文化財となっています。

邸内の素朴なたたずまいからは、城下の人々の日常の暮らしぶりが伝わってきます。